小諸市で育つ子供たちに込める私たち市民の願い

～これからの教育の動向～

平成29年２月２１日

小諸市長期学校改築計画検討会　井出忠臣

小諸市教委より示された資料から

〇自主財源　26年度　88億4500万円
　　36年度　61億7800万円（約３０％減）

〇生産年齢人口

平成12年	→	平成28年	→	平成52年
約3万人		約2万5000人		約1万6000人
（16年前）				（24年後）
生まれる少し前		15歳		39歳
		（中学3年生）		

〇経験したことのない変化が急速に進展

〇市政は縮小。　でも、住みよい街づくり、希望のある街づくり、発展する街づくりの推進

〇小諸市の街づくりを近い将来支えるのは現在の子供たち・・・・・・・・・どの子供も皆　大切な人材

〇学校も市民も総ぐるみで、どの子供も大切に育て、人材としていく取り組みを

校舎を語ることは教育の在り方を語ること

学校建築は「これからの時代を生きる子ども」を育てる教育の場づくり

小学生や中学生は
どのような時代を生きるのか

○　十数年後には今の仕事の半数近くが自動化される。

○　二十数年後に人工知能は人類を超える。

○　子ども達の６５％は、大人になったとき、今は存在しない職業に就くことになる。

○　働き方が変わる。

～中教審･文科省が教育改革を進める文章で引用している基礎資料～

国はどのように時代の変化をとらえているか

中教審答申「 教育システムの構築について」 26.12.22

生産年齢人口は減少し続けるなど、主要先進国でもまれに見る速さで少子高齢化が進んでいる。

中教審答申「新学習指導要領」28.12.21

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。

閣議決定「教育振興基本計画」 25.6.14

少子高齢化、産業の空洞化等深刻な諸課題を抱える我が国は、極めて危機的な状況にある。

この時代の子供に願うこと

中教審答申　「新学習指導要領」 28.12.21

予測できない変化に受身で対処するのではなく、主体的に向き合って、自らの手で自らの人生を切り拓く子供

社会的・職業的に自立した人間となるよう
高い志や意欲を持って　主体的に判断し
他者と協働しながら
新たな価値を生み出すこと

「教えて身に付ける」教育の時代から

↓

子供の能力や可能性を引き出し
主体的に人生を切り開く意欲と志を育む
教育の時代

具体的な教育改革の動き
＜大学入試改革＞

「センター試験」→
「大学入学希望者学力評価テスト」

「思考力・判断力・表現力等の能力」を中心に評価

安西祐一郎中教審会長談話

今度大学入試の改革ができなければ子供たちにとっても我が国にとっても致命的なものになる。

＜今年度の中学2年生から対象＞

東京大学推薦入試　京都大学も
学ぶ意欲や志を評価する (H28)

今の時代の学力とは

学校教育法第32条

知識・技能を 習得」

思考力 判断力 表現力を 育む」

主体的に取り組む態度を 養う」

学力が法律で示された

学力はどの子どもにも保障するもの

そのために学力テストを悉皆で行う

指導の仕方の転換

「教えて身に付ける」教育から

習得」させ　育み」　養う」教育へ

「習得」・・・少しずつできるようにする。

「育む」・・・少しずつ変容していくようにする。

「養う」・・・・少しずつ高まっていくようにする。

一人一人の子供の思考力・判断力・表現力の質が変容していく

一人一人の子供の主体性が高まっていく

一人一人に「自分もできる」という自信がついていく

習得」育む」養う」は時間がかかる

〇継続して取り組む(継続性)

1時間、1時間の積み重ねが必要

子供は友達との比較ではなく、昨日の自分と比較する

指導者は子供の変化に目を向けて評価、指導する

〇系統付けて取り組む 系統性)

小学校低学年から高学年へ継続し、質を高める

小学校から中学校へ継続し、質を高める

↓

学年間の連携 一貫　小学校 中学校の連携 一貫

習得」育む」養う」は手間と人手がかかる

〇学習活動の準備には手間がかかる
子供が自ら取り組み、考え、表現できる学習の場を用意
支援し、見守り、表現させ、評価し、励ます

〇企画、準備、見守り、評価には人手がかかる
学年会・教科会で活動場面を企画し準備
必要な時は、複数の教師で指導し、評価
外部からの支援

↓

幾人もの教師が関わって計画・指導・評価
地域・保護者の皆さんとの連携・協働

事例の紹介　習得）

小学校の低学年：　どの子供も基礎力を伸ばし、学ぶ力を育成する取り組み

「声を出して国語の本を読む」

担任が学級一人一人の読みを聞き、進歩を褒め励ますことは大変な時間

保護者に聞いていただき親子の会話をしていただく。

保護者との連携 ・協働

「励み」を持って継続することができるようにするために・・・・発表の場を

「地域のおじいさん、おばあさんに音読を聴いていただく。月曜日・木曜日」

地域の皆さんとの連携 ・協働

学年のカリキュラムに「声を出して国語の本を読む」学習が位置付く

評価：　理解力、意欲が格段に向上　　カリキュラム・マネジメント

保護者もボランティアの皆さんもみんなで成果を喜び合う

五年生、六年生、から中学生になると、黙読に変わる

目的も、内容の読み取り、要約に　　継続性と系統性をもつ一貫型へ

教師が個々で取り組む教育の時代から

○多くの教師が、指導方針や子供理解について共通理解し、系統的・継続的な取り組みをする

○保護者や地域の皆さんにも参加をいただく教育の時代へ

＜中教審答申　学習指導要領」＞

28.12.21

○アクティブ・ラーニング

どの子供も、思考し、表現し、仲間と深める

○カリキュラム・マネジメント

教育の目標を共有し、計画的に実践し、評価・改善していく

○社会に開かれた教育課程

保護者や地域の皆さんに参加をいただく

＜私たちの意識の転換＞

〇子供の育成は、学校･市民で願いを共有し、
　一緒になって総ぐるみで推進する時代に

〇学校･市民で願いを共有するには、そのプロセスをつくることが必要である。

〇「限られた予算であること」「子どもの数の減少」の問題を 悲観的にとらえるのではなく、未来に向かって子どもをどのように育成か、市民全体で考える好機に

〇子供に何かしてあげるのではなく、子供に考えさせ、判断させ、行動させる仕組みをつくる。

教育の動向から見えてくる学校のかたち

〇学校には、小中で目標を共有して、系統的・継続的に取り組むための推進役の職員がいる。

〇学校にも地域にも、連携・協働するための仕組みや推進するための人々がいる。

〇学校には、教科・英語・特別支援教育・プログラミング等に専門性を持ち、推進する教師がいる。

また、地域には、支援する人材がいる。

〇学校には、アクティブ・ラーニングをチームで企画し、実践する学年の集団・教科集団がある。